

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和二年四年度 入選句（投稿総数四百七十六句・一般投句数四百二十句）

特選

周作の黙の叫びの絵踏みかな

東京都狛江市 椎野 一恵

この句に出会って、私は遠藤周作の『沈黙』を思い出した。『沈黙』は、江戸時代初期の忠実を基に書かれたキリスト弾圧の小説である。周作はキリシタンであったことも、踏み絵に対する怒りがあったのだろう。

詠者は、「周作の黙の叫び」を、この『沈黙』をイメージしたかは定かではないが、絵踏する人々も「黙の叫び」であったに違いない。

子猫五匹名札代はりの彩リボン

福岡県福岡市 大津 英世

かわいい子猫に美しいリボン。描写が上手いというのか、俳句の原点である「写真写生」の見本とでもいふべき句である。見た物を、素直に、自分の言葉で表す。それで、俳句になるのだ。よく、「ちよつと、ひねつて！」などという言葉を聞くが、そんな必要は全くないことを、この句は教えている。

ものの芽の尖ればいのち躍動す

三重県四日市市 後藤 允孝

色々な草木の芽が、ふつくらとして今にもはじけそうになる。よく観察すると、先だけが尖っているではないか。芽の真ん中が膨らむことにより、先がするどく尖ったように見える。まさに、命の勢いが踊り出すようである。

秀逸

現役の卒寿の医蓬摘む

愛知県名古屋市 舘野 茂子

雁風呂の話地酒は手酌にて

東京都世田谷区 関戸 信治

鐘のなるかつて絵踏みに泣きし街

大垣市 安田 むつこ

跳ね返り撥ね返されて上り鮎

不破郡垂井町 富田 実郎

雪洞の少し傾ぎし古雛

大垣市 傍島 豊子

蔵の戸に歳月の鏽春愁

養老郡養老町 田中 紫香

初音聞くもう一声を待つ朝

不破郡垂井町 久保田 紘義

色淡く枝垂る紅梅くぐり門

不破郡垂井町 川瀬 慶泉

山独活の人寄せ付けぬ斜面かな

愛知県豊田市 城山 憲三

風を聴き雨を遊びて西行忌

大垣市 平野 ヒサエ

入選

春寒し事故の芥は湯に流す
指折りて気持ち高ぶる初句会
杜の影人影もなく神無月
抗がえず娘は黙し絵踏みせり
老の杖一步二歩行く早や二月
萌え出づる命さまざま風光る
野の匂ひ山の匂ひや水温む
老桜に洞あり今朝の二三輪
蟬糸抜けば卒業袴かな
身半分せり出したるや春大根

福井県敦賀市	山田 美千代
岐阜市	村瀬 充夫
岐阜市	船渡 恵
大垣市	安田 むつこ
大垣市	宮上 美濃留
不破郡垂井町	宮代 一草
大垣市	村田 通夫
大垣市	臼井 秀子
大垣市	秋山 くに子
大垣市	鶴田 信子

入選

寂庵はお留守のもやう竹の秋
幹を撫で仰ぐ大樹の桜かな
毛糸編む指の古傷わずらわし
強東風や寺の廊下の黒びかり
浮き立ちて今日は派手目の花衣
老僧の経ろうろや春彼岸
一服の茶に心解け霜の朝
庭石に仏の宿る花明り
麗かや單身赴任の荷を片す
涅槃西風いつしか考の読経癖

奈良県奈良市	やまとなでしこ
岐阜市	堀 正子
不破郡垂井町	大羽 志津子
安八郡輪之内町	野村 照子
大垣市	新町 恵子
大垣市	澤井 国造
大垣市	大杉 すみゑ
神奈川県川崎市	佐藤 廣枝
安八郡安八町	牧村 うらら
岐阜市	堀江 美州

選者吟

なめらかにすべりゆく船瀬戸内の春

永 山